OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	＜紹介＞岩坪健著『源氏物語の享受注釈・梗概・絵画・華道』
Author(s)	松本, 大
Citation	語文. 2013, 100-101, p. 150-151
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70918
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

岩坪健著『源氏物語の享受　注釈・梗概・絵画・華道』

松　本　　大

岩坪健氏は、『源氏物語』の注釈書・享受に関する著名な研究者であり、本学の出身である。本書は、岩坪氏が一九九八年から二〇一〇年までに発表した二十六本の論考と七本の翻刻資料を収めており、『源氏物語古注釈の研究』（和泉書院、一九九九）に続く研究書にあたる。本書では主に中世から近世にかけての『源氏物語』享受の諸相を扱っている。

本書の構成は、副題に「注釈・梗概・絵画・華道」とあるように、四つの分野ごとに各論がまとめられている。全容は目次により端的かつ正確に把握出来るため、多少長くなるが以下に示す。

第一編　注釈書
第一章　出典考証と鑑賞批評―源氏読みにおける男性性と女性性―
第二章　河内本源氏物語の系統―『水原抄』『紫明抄』との関係―
第三章　『紫明抄』の成立過程―『異本紫明抄』との関係―
第四章　『源氏物語千鳥抄』の系統と位置付け
第五章　源氏物語注釈書に見える中国古典
第六章　一助兼良『花鳥余情』の系統に関する再考
―一条家伝来本、大内政弘送付本、および混態本の位置付け―
第二編　梗概書
第一章　冷泉家時雨亭文庫蔵『源氏和歌集』
第二章　『物語二百番』の本文
―冷泉家時雨亭文庫蔵『源氏和歌集』との関係―
第三章　尊経閣文庫蔵伝二条為明筆『源氏抜書』
第四章　吉永文庫蔵『源氏秘事聞書』
第五章　もう一つの源氏物語
―梗概書と連歌における源氏物語の世界―
第六章　明石の君の評価―中世と現代の相違―
第七章　版本『源氏小鏡』の本文系統
第八章　『源氏絵本藤の縁』の本文―梗概書との関わり―
第三編　源氏絵
第一章　源氏絵研究の問題点―肉筆画と木版画の比較―
第二章　絵入り版本『源氏物語』（山本春正画）と肉筆画との関係
―石山寺蔵『源氏物語画帖』（四百画面）との比較―
第三章　源氏絵の型について
―絵入り版本『源氏物語』（山本春正画）を中心に―
第四章　版本『源氏小鏡』の挿絵―本文との関係―
第五章　源氏絵史における『源氏鬢鏡』の位置付け
―肉筆画との関係―
第六章　源氏絵に描かれた男女の比率について
―土佐派を中心に―
第七章　源氏絵に描かれた男女の比率について

―絵入り版本を中心に―

第八章　源氏絵における几帳の役割について

―国宝『源氏物語絵巻』と土佐派、版本―

第九章　伝賀茂真淵撰『源氏物語十二月絵料』

第四編　源氏流活花

第一章　源氏流生花書について

第二章　源氏流華道の継承

第三章　源氏流華道の変奏

第五編　資料集

（略）

このように本書の考証は非常に広い範囲に及んでおり、その上、各分野の基礎研究として位置付けられる論考も少なくない。特に第二編「梗概書」に関しては、『源氏物語』梗概書研究の第一人者である氏の知見が余す所なく提示されている。こうした盤石強固な論考の多くは、氏の地道な調査に基づいた成果であることを忘れてはならない。

本書で取り上げられた各分野は、一見全く異なる営為のように映るが、実は密接に連関していることを氏は指摘する。例えば、第三編で取り上げた源氏絵は、物語本文に直接依った箇所だけではなく、注釈書や梗概書を下敷きにしたと判断出来る箇所もあり、必然的に第一編や第二編とも繋がって来る、といった具合である。多様な『源氏物語』享受が存在し、それらが絡み合いつつ新たな享受を生み出していくことを的確に示すものである。

研究史上特に注目されるのは、第四編にまとめられた、華道における『源氏物語』享受である。『源氏物語』の享受は、これまで様々な分野において確認され論じられてきたが、華道についてはほとんど言及されて来なかった。華道における『源氏物語』摂取は、一八世紀後半に千葉龍卜が江戸で興した源氏流に端を発する。岩坪氏はこの源氏流に着目し、伝書の丹念な調査を行うことで、源氏流華道の実態を解明している。さらに、華道史における源氏流の位置付けと意義をも詳らかにしており、現代の華道への影響も指摘する。華道という、新たな『源氏物語』享受の一端が示されたことによる、今後の研究展開が期待される。なお本書の資料編には、源氏流華道の新出資料として紹介された、柳沢文庫保存会蔵『生花表之巻』、及び、たつの市立龍野歴史文化資料館蔵『源氏五十四帖之巻』・『源氏六帖花論巻』の影印・翻刻も付されており、当該研究には欠かせない重要な資料となろう。

本書で岩坪氏は、『源氏物語』享受の諸相を、それぞれの実態像を明確に示した上で、鮮明に浮かび上がらせることに成功している。現在の『源氏物語』研究の中には、ややもすると実態像を明らかにしないまま、「享受」という一言で問題を片付けてしまうものもある。こうした研究上の改善点を前に、本書は複雑多様で重層的な「享受」のあり様を気付かせてくれる。

（和泉書院、二〇一三年二月、八一九頁、一六、八〇〇円）

（まつもと・おおき　本学大学院博士後期課程・日本学術振興会特別研究員）